

中部環境パートナーシップオフィス運営業務

第 6 期（2021～2023 年度）事業計画

2021 年 4 月策定

1. 第6期達成目標

アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs 活用が進みつつある中部エリアにおいて
**新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGs の実装・実践のための支援と、
 誰も取り残されないターゲット設定、EP0 機能強化の関係構築に取り組みます。**

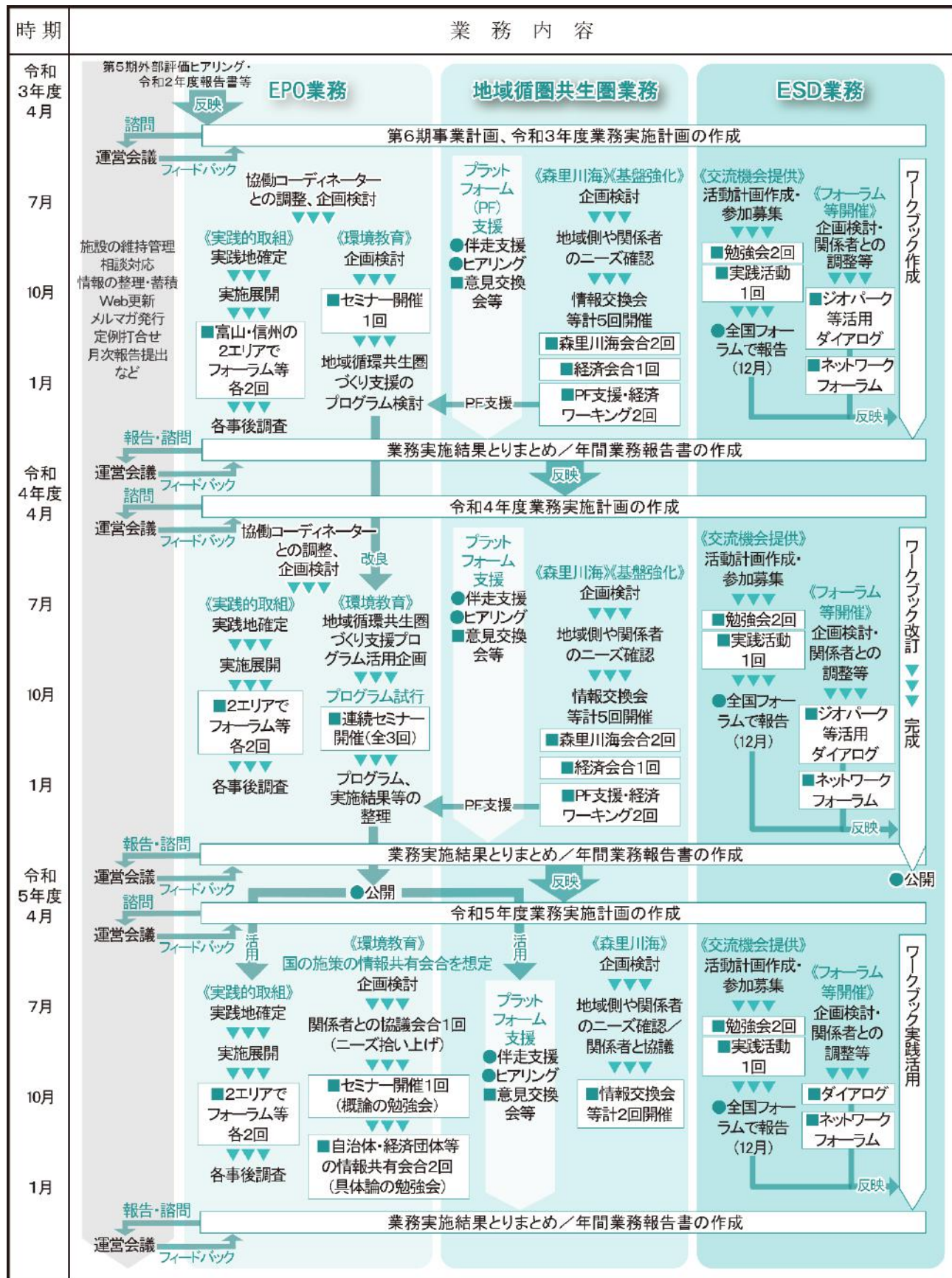
2. 方針

- (1) 地域循環共生圏づくりや SDGs 推進の支援にあたり、細やかな個別対応と、他の取組支援等への汎用化を行います。
 - ① 【個別対応】地域／取組が必要とする支援を細やかに汲み上げると共に、これまでの協働取組への支援の経験やツールを活用するなどして、事例ごとに個別に対応した支援を展開します。
 - ② 【汎用化】EP0 中部が展開してきた支援内容の整理を行い、地域循環共生圏づくりや SDGs 推進のためのプログラム化とその実装・実践に取り組みます。
- (2) SDGs 推進・活用の取組において今後重要となる「目標設定」と「評価」について、第5期の作成ツール（活動見える化プログラム、SDGs チェックリスト等）や、外部団体による SDGs 指標ツール等を活用するなどして、独自の地域 SDGs 評価（SDGs の取組の現状等を評価する）機能の構築に取り組みます。
- (3) 上の(1)(2)の支援や多様なステークホルダーの巻き込みにおいて、第5期の運営会議等での指摘事項や抽出された課題等に留意し、次の EP0 機能の強化に取り組みます。
 - イ) 資金調達に関わる主体（特に金融機関や経済団体等）との関係構築
 - ロ) 地域実践者である EP0 中部・協働コーディネーターとの関係強化と新たなネットワークづくり
 - ハ) 取り残されがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット設定した支援のあり方検討

3. 3か年度（2021 年度～2023 年度）の目標、方針、事業

令和3年度	目標	第5期に EP0 中部／中部地方 ESD 活動支援センターが作成したツール・コンテンツの拡充と共に、地域循環共生圏づくり・SDGs 推進への支援システム（体制・仕掛け）を充実させます。
	方針	● 活動見える化プログラム、SDGs チェックリスト等のツールを活用した、地域に対する EP0 中部の支援機能に、SDGs の実践状況等を「評価」する新たな機能の付加に取り組みます。 ● 地域循環共生圏づくりや自然資源のワイズユース等で実施する「資金調達のための SDGs 共感ストーリー」づくりワークショップ（令和2年度実施）をプログラム化し、地域づくりにおける資金調達への認識・関心を喚起する支援のあり方を検討、整備します。 ● 環境施策×経済・ビジネス・金融（×必要に応じてその他分野）における関係構築を図り、地域循環共生圏づくりにおいて重要となる地域金融、地域ビジネスネットワークづくりに取り組みます。 ● SDGs に取り組むことの難しい中小企業等を対象に、ESD 実践支援の場の設営（勉強会等開催）と支援ツール「(仮)中部版 ESD ワークブック」を作成し、SDGs に取り組みやすくなる機会創出を図ります。
	事業	・ 地域 SDGs 評価による支援方法の検討と構築 ・ 資金調達のための SDGs 共感ストーリーづくりワークショップの独自モデル／プログラムづくり ・ 経済団体・金融機関等の環境施策に関連した意向把握のための会合開催、及び関心の高いテーマを対象にした情報共有会合等を試行的に実施 ・ 中小企業対象の勉強会等の開催、支援ツール「(仮)中部版 ESD ワークブック」プロトタイプ版の作成 ◆事業費見積：計 3,773 万円

4. 業務フロー



5. 主な取組の3か年実施展開案

方針（1）

地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援における個別対応と、他の取組支援等への汎用化

- ① **【個別対応】**地域／取組が必要とする支援を細やかに汲み上げると共に、これまでの協働取組への支援の経験やツールを活用するなどして、事例ごとに個別に対応した支援を展開します。
- ② **【汎用化】**EPO 中部が展開してきた支援内容の整理を行い、地域循環共生圏づくりやSDGs推進のためのプログラム化とその実装・実践に取り組みます。

【概要】

- 地域循環共生圏づくりやSDGs推進に取り組む地域への支援にあたり、地域それぞれの課題、進め方等に応じ、個別に支援内容・方法を組み立てる必要があります。そのため、地域のニーズや地域課題などを適切に把握し、支援対象の地域・主体それぞれに応じた支援を展開します（「個別対応」として3カ年度を通して実践します）。
- また、実施した支援内容や事例については、「活動見える化プログラム」等を用いて適宜整理してモデル化などを行い、中部エリア全体の地域循環共生圏づくりやSDGs推進の底上げを図るために必要となる仕掛けについて分析、検討します。
- その個別対応モデルから EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターとしての地域支援の実績をプログラム等として整理し、具体の個別支援に至る前段階にある地域においても活用できるものにし、中部エリアの地域循環共生圏づくりやSDGs推進に取り組む地域が活用・参考にするためのコンテンツとして公開します。

【「汎用化」の進め方】

令和3年度 支援内容の整理（プログラム化）

- 令和3年度は、前期までに EPO 中部が実施してきた同時解決事業や地域循環共生圏 PF 事業等における地域支援の内容を整理するとともに、令和3年度の地域循環共生圏 PF 事業支援や主催イベント等で実施したワークショップ／ワーキングのプログラムを整理します。
- 特に、令和2年度に実施した森里川海ネットワーク形成会合業務で実施の自然資源のワイズユースにおける「資金調達のためのSDGs共感ストーリー」づくりワークショップについて、地域側のニーズがあった場合には令和3年度も実施し、そのワーキング内容等を整理し、プログラムの構築を目指します。

令和4年度 プログラムの試行・検証・改善

- 前年度までの地域循環共生圏づくり等に対する EPO 中部の支援実績と共に、その中で実施したワーキングのプログラム等（SDGs 共感ストーリーづくりワークショップのプログラム等）を、EPO 中部による支援メニュー化します。
- また、令和4年度の業務やイベント等で、連携する地域、協働コーディネーター等に EPO 中部支援実績、或いは EPO 中部独自の支援メニューとして提示し、地域側にニーズがあればそのプログラムを取り入れたワーキングを実施し、併せてプログラムに対する検証も行い、必要な改善も図ります。

令和5年度 プログラムの実装と公開

- 令和5年度は、第6期に構築したプログラムやツール等を地域づくり支援に関わる業務、イベント等で実践活用します。
- また、プログラムやツールは、地域循環共生圏づくりやSDGs実践に取り組む地域にとっての参考情報・活用コンテンツとして公開します。
- 実践活用した内容も、プログラムの活用事例、或いは支援事例として併せて公開し、EPO 中部の実績等をPRするコンテンツとしての活用も図ります。

方針（２）

独自の地域 SDGs 評価（SDGs の取組の現状等を評価する）機能の構築

【概要】

- 第５期に作成した「SDGs チェックリスト」については、SDGs 実践に取り掛かりはじめたばかりの主体から活用したいとの問合せが複数あり、好評を得ている。
- 同時に、既に積極的に SDGs の実践を進めている主体からは、SDGs についての基本的な理解や 17 ゴールとの紐づけの次ステップとして、SDGs の取組状況への評価、目標設定に取り組むための方法等に対するニーズが聞かれるようになっている。
- また、令和２年度に実施した ESD ネットワーク地域フォーラムで活用した「SDGs 状況評価データ自治体レーダーチャート」（中部大学国際 GIS センター）など、様々な組織から SDGs 指標ツール／プログラム等が発行されている。
- 地域にによる SDGs 実践の進化や深掘りに資する支援として、既存の SDGs 関連ツール／プログラム等を整理し、「SDGs チェックリスト」に続いて中部エリアの自治体、企業等が活用可能な「地域 SDGs 評価」メニュー、或いは情報提供について検討する。

【業務の進め方】

令和３年度 「地域 SDGs 評価」のあり方検討

- 第５期に作成した活動見える化プログラム、SDGs チェックリスト等のツールに加え、地域循環共生圏づくりや SDGs 実践に取り組む地域の取組状況等の「評価」が可能となる既存の仕組みを整理するなどして、「地域 SDGs 評価」の支援方法の構築を目指した検討を行います。

令和４年度 「地域 SDGs 評価」の試験的な実施・検証

- 前年度の検討結果をもとに、「地域 SDGs 評価」のメニュー／プログラムを構築し、活用可能なコンテンツ（或いは情報提供素材）として公開します。
- 同時に、「地域 SDGs 評価」メニュー／プログラムを SDGs に関わる地域支援業務・イベントや相談対応などでニーズのあった案件において、試験的の導入し、検証等を行います。

令和５年度 支援内容の整理（プログラム化）

- 前年度に続いて、業務や相談対応等において「地域 SDGs 評価」メニュー／プログラムを実践活用し、メニュー／プログラムと実践事例を EPO 中部の具体の支援メニューの一つとして明示（PR 活用）します。

方針（３）

地域支援や多様なステークホルダーの巻き込みにおける EPO 機能の強化

イ) 資金調達に関わる主体（特に金融機関や経済団体等）との関係構築

ロ) 地域実践者である EPO 中部・協働コーディネーターとの関係強化と新たなネットワークづくり

ハ) 取り残されがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット設定した支援のあり方検討

【概要】

イ	資金調達に関わる主体(特に金融機関や経済団体等)との関係構築	- 地域循環共生圏関連事業（地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業等）において、経済・ビジネス・金融関係機関との関係構築を重視した地域ビジネスネットワークづくりに取り組みます。 - また、地域と経済・ビジネス・金融関係機関とのマッチングにつながる具体の事例創出を目指します。
ロ	地域実践者である EPO 中部・協働コーディネーターとの関係強化と新	- 第５期に引き続き、第６期でも協働コーディネーターと連携した地域実践の業務・イベントを展開します。 - 加えて、これまでに連携・協力のあったその他の地域実践者・地域活動者を

たなネットワークづくり	含めた新たな地域展開のためのネットワーク形成を図り、将来の環境施策の動向、社会情勢に適応しつつ、中部エリアの各々の地域性にもできるだけ寄り添った業務・イベント展開を可能とする EPO 中部のシステム（体制・仕組み）の確保を目指します。
ハ 取り残されがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット設定した支援のあり方検討	- 第5期運営会議委員等の学識者・専門家等から、SDGs 推進において、地場産品製造事業者や商店街等を含めた中小企業や小規模自治体の支援が重要になるとの指摘があったことをうけて、第6期では、中小企業・小規模自治体等の組織・団体を主なターゲットにした SDGs/ESD の実践支援を展開します。 - 具体的には、勉強会等の場の設営とともに、その実施結果や活用ツール、参加者の声等を盛り込んだ支援ツールを作成します。

【業務の進め方】

イ）資金調達に関わる主体（特に金融機関や経済団体等）との関係構築

令和3年度	- 地域循環共生圏関連事業（地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業等）においては、経済団体・金融機関等の環境施策に対する意向の把握を目的とした接触機会（会合等）を積極的に設けます。 - また、経済団体・金融機関等の意向及び、令和3年度の注目テーマとなる環境施策の動向等を踏まえつつ、環境施策×経済・ビジネス・金融（×その他分野）による情報共有の場、環境施策への理解促進の場などを設営します。
令和4年度	前年度の環境施策×経済・ビジネス・金融（×その他分野）の関係構築状況を鑑みつつ、継続しての関係構築、もしくは次ステップとして、具体の地域・事業におけるマッチング等に対するニーズの抽出を図り、EPO 中部として可能な取組を企画し、実施します。
令和5年度	令和4年度までに関係構築に取り組んだ経済団体・金融機関等とのつながりを活かし、地域循環共生圏づくりにおける地域環境ビジネス支援などを展開します。

ロ）地域実践者である EPO 中部・協働コーディネーターとの関係強化と新たなネットワークづくり

令和3年度	- 第5期に続き、第6期においても協働コーディネーターと連携した地域循環共生圏づくり、SDGs 実践のための取組を展開します。 - 協働コーディネーターには EPO 業務を活用してもらおうと同時に、EPO 中部が地域のニーズに即した業務・イベント展開の協力者・実践者として活躍してもらい、相互協力関係の強化を図ります。
令和4年度	地域ニーズに即した業務・イベント展開において、協働コーディネーターとの協力による業務展開と共に、これまでに実施した業務の中で連携・協力を得た（協働コーディネーター以外の）地域実践者との関係構築・強化を目指した地域実践業務を実施します。
令和5年度	地域実践者と連携した協働取組等において、従来の協働コーディネーターとの連携に加えて、新たな地域活動者との連携も積極的に確保し、次期フェーズに向けた地域実践において、EPO 中部が中部のどの（遠方）エリアとも、その地域の情勢、ニーズに適応した展開を可能とするためのネットワークを構築します。

ハ) 取り残されがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット設定した支援のあり方検討

令和3年度	● 小さな地域／主体も SDGs 実践に取り組める素地づくりとして、中小企業や小規模自治体等を主対象に想定した、SDGs／ESD 実践支援の場を設営（勉強会等開催）ます。 ● 実践支援にあわせて、そこでの活用ツールとして「(仮)中部版 ESD ワークブック」（プロトタイプ版）等を作成するなどして、参加者（企業・自治体等）が SDGs に取り組みやすくなる仕掛けづくりにも取り組みます。
令和4年度	● 前年度に続き、中小企業や小規模自治体等を主対象に想定した実践勉強会等を実施します。 ● また、実践勉強会等の2カ年度の実施結果をとりまとめた支援ツール「(仮)中部版 ESD ワークブック」の完成版を作成し、勉強会等に参加できなかった団体も活用できるよう公開します。
令和5年度	● 「(仮)中部版 ESD ワークブック」を広く活用してもらうことと、ESD 実践勉強会の総括として、《取りまとめイベント》を開催します。 ● 《取りまとめイベント》では、参加者と共に、中部のローカル SDGs を担う人づくりのあり方についてディスカッション（共有）します。